

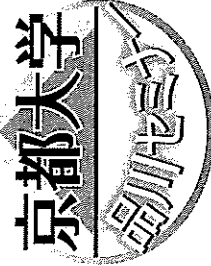
# 工業支えに初の総力戦

京都大品川セミナー第56回(9日)のテーマは「第一次世界大戦と現代・世界」。

◇  
第一次世界大戦を対象とする共同研究で焦点にすえたのは、「私たちはいかなる時空間に生きているのか」という問いだ。約100年前に始まったこの大戦は、まさに「現代の起点」なのだ。

第二次大戦を上回る犠牲者を出した英国では、第二次世界大戦を「ザ・グレート・ウォー(大戦争)」と定冠詞付きで呼ぶ。欧州の戦争との意識が

強いが、日本もシベリア出兵で参戦し、中国やインドシナの民間人も、労務者として参加した。美は開戦直後に「世界大戦」と命名したのは、米国も参戦すると考えた日本人であった。



第一次世界大戦と現代・世界

山室信一 人文科学研究所長



京都大学 KYOTO UNIVERSITY

1975年、東京大法学部卒業。衆院法制局参事を経て、78年に東大社会科学研究所助手。その後東北大学助教授などを歴任し、98年、京都大学人文科学研究所教授。2013年から現職。

大戦の結果、資本主義対社会主義という後の冷戦につながる国際体制が出現した。さらに民族自決思想の影響を受け、朝鮮で三・一運動(1919年)、中国では五・四運動(同)が起きた。これらは現在の日中韓3国の関係に大きく影響している。

国力を挙げた初の総力戦という見方もできる。支えとなったのは科学力、工業力だった。経済封鎖されたドイツでは、弾薬に必要な硝薬の原料を得るための空中集薬固定技術や、海上封鎖を破るための潜水艦「Uボート」など、画期的な発明があった。

日本でも科学研究や教育体制の整備が進んだ。1917年には理化学研究所が創設され、京都大や東北大など、大学でも化学や金属関係の付置研究所が次々と設立された。大学令によって専門学校が大学へと昇格し、科学研究への助成が制度化されるなど、今の大学制度の基礎が築かれたのもこの頃だ。

民生品の軍事利用などを指す「デュアルユース」と呼ばれる現代的な問題も、第一次大戦に端を発する総力戦の性質に源がある。

英国が軍艦の燃料を石炭から石油に転換するなど、エネルギー革命も始まった。物資を大量に消費したため、大量生産・大量消費のシステム

が生まれ、人々の生活スタイルも大きく変化した。都市では、社会を動かす新たな主体として「大衆」が登場。戦後は余剰物資を消費する必要から、宣伝で需要を作り出す商業化した広告活動が台頭した。

民主主義先進国による大量殺りくという、文明の二面性が表れた第一次大戦の人類史的意義を日本の視点で捉えるのが我々のテーマだ。それはまた人文科学の可能性を問う返すための共同作業に他ならない。

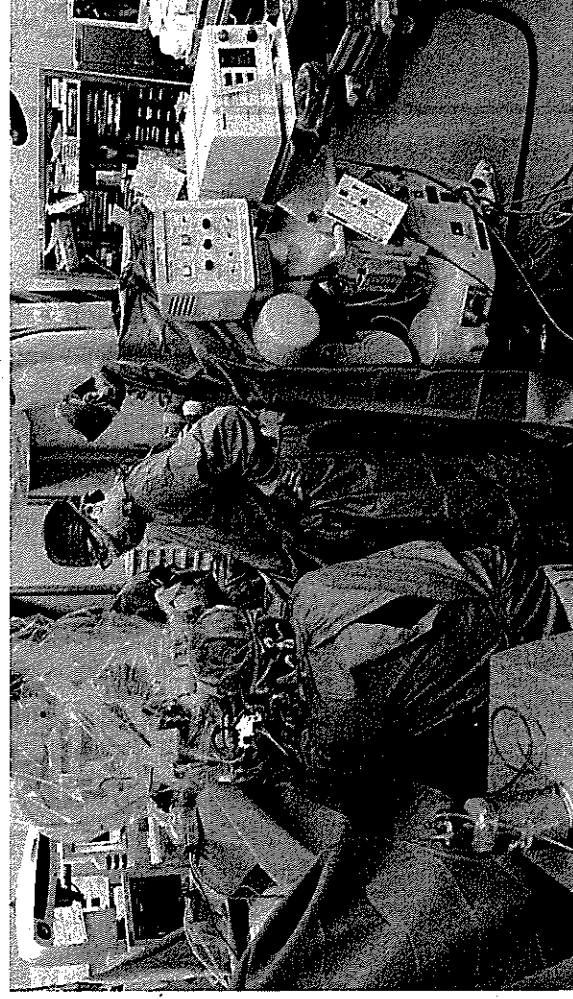
◇  
今回は2月6日、地域研究統合情報センターの村上勇介准教授による「ネオリベラリズム後の政治世界―安定化の条件をラテンアメリカの経験からさぐる」。

ヨミウリ・オンラインでもご覧いただけます。  
<http://www.yomiuri.co.jp/osaka/>



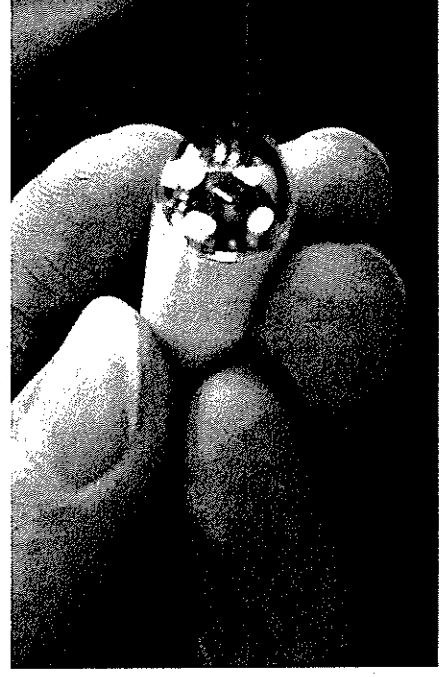
「照明を消して」。昨年11月下旬、東京医科大病院(東京都新宿区)の秋元治朗教授の指示で暗くなった手術室。手術台でおむけになった男性患者の脳の病変部へ向かって赤色のレーザー

# レーザー 患部狂



# 脈腫瘍 生有期間短く

●悪性腫瘍の患者にLEDの手術を行う秋元教授(中央)。この後、照明が消され、手術台の上にある装置を通じてレーザーが患者の頭に照射された(昨年11月、東京医科大病院で) ●藤原健雄撮影  
●中心の小型カメラの周囲4か所に設置された白色LEDが光るカプセル内視鏡(東京都人吉市のオリンパスマイカルシステムズ技術開発センターで)



# LEDも内視鏡に応用

昨年のノーベル物理学賞を受賞した日本の研究者3人が開発した青色発光ダイオード(LED)も医療に欠かせない存在になりつつある。

小型カメラ内蔵のカプセルが小腸内を進みながら撮影した画像で内部の様子を診察する「カプセル内視鏡」。小腸内を照らす白色LEDは、青色LEDを基に作られている。

国内メーカー「オリンパス

マイカルシステムズ」(東京都新宿区)の製品(長さ2.6センチ、直径1.1センチ)には、最新型で4個の白色LEDが取り付けられている。

2003年から開発に着手し、05年には欧州から発売を開始。開発チームの木許誠一郎リーダーは「コンパクトで明るい白色LEDがなければ、大きさが限られているカプセル内視鏡の製品化はできなかった」と話す。

ナノの世界にも  
LEDの技術を応用し、ナノ(1ナ、約100万分の1ナ、約)の世界で新しい治療法を実現しようとしているのは、片岡一朗・東京大教授らのチームだ。  
治療用の遺伝子を運ぶナノ

粒子を細胞核に導入することに成功した。  
遺伝性のがんや動脈硬化など、多くの病気の遺伝子治療に応用できる技術として注目されている。片岡教授は「光を使えば、狙い通りに病気を治すことが可能だ。10年後の美容化を目指したい」と話す。

# 高い技術で信頼の《オムロン製》耳あな型補聴器

## 大好評! シリーズ累計販売台数116万台突破!

OMRON

体温計やおなじみのヤマトエテの方でも安心お手頃価格の補聴器です。聞こえにくくなったか、難聴の方、左右どちらでも使用できる、収まる小型の装着が目立たないご自身の顔に合わせることができ、然な聞こえ、操作も細かい調整は不要、補聴器をすすめます。孫さんの。

「オムロン21のお得なキャンペーン」  
今ならイヤマイクご購入  
先着100名様に

ご意見、情報は、科学部へ。電話06・6366・1649、ファクス06・6361・0521、電子